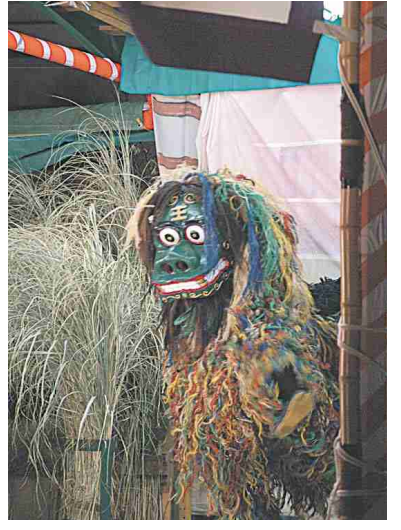


沖縄のページ



世界日報ホームページ
http://www.worldtimes.co.jp

志多伯に8年ぶり獅子加那志



沖縄本島南部の八重瀬町志多伯で17、18の両日、旧暦8月15日(祝日)「獅子加那志(分なし)」33年忌慰霊年祭が行われた。志多伯の慰霊年祭は年忌ごと開かれ、今年のは戦後2回目の33年忌にあたる。字の守護神「獅子加那志」の写真が8年ぶりに元気を現した。

美人風 ちゅららじ

日本人が英語を話さない原因の一つとして、日本語には「ウー」という音がない。長年、NHK英語講座を担う松本氏は、英語教育の権威である。松本氏がこの本道に込めた思いを、英語で「Woman(女性)」が発音される「ウー」の持つ言霊について解説した。松本氏は、英語教育と異文化交流について学ぶ「純道館」を設立させ、全国的に英語を通じて情理や哲学を学ぶ機会を提供している。

「パンドラの箱」掲載拒否訴訟

原告の上原さんが最終原稿公開
2007年5月26日から琉球新報に掲載された上原正稔さんの連載「パンドラの箱」の箱を開ける時が急遽打ち切りになった問題で、上原さんはこのほど、掲載を断られた最終回の原稿を公開。この中で、先の沖縄戦で慶良間諸島の隊長を務めた赤松嘉次氏と梅澤裕氏が軍命令を出していないことを証明した。この問題の訴訟で、原告側は「新聞社の方針」で掲載しなかったことは、間違えた世論誘導にあたるとして攻撃に出ている。(那覇支局・豊田剛)

「集団自決軍命なし」を証明



上原正稔さん

人間が試される究極の舞台で、沖縄の人々が見事に戦争で生き残り、老人たちの姿は敵から、子供たちの笑顔は純真であったことを伝えてきた」と自負する。上原さんは、8月半の第9話後、「慶良間で何が起きたのかで、「集団自決」についてアメリカ残り、老人たちの姿は敵から、子供たちの笑顔は純真であったことを伝えてきた」と自負する。上原さんは、8月半の第9話後、「慶良間で何が起きたのかで、「集団自決」についてアメリカ残り、老人たちの姿は敵から、子供たちの笑顔は純真であったことを伝えてきた」と自負する。上原さんは、8月半の第9話後、「慶良間で何が起きたのかで、「集団自決」についてアメリカ残り、老人たちの姿は敵から、子供たちの笑顔は純真であったことを伝えてきた」と自負する。

沖繩マスコミの言論統制に警鐘

自分の原稿が大幅に手を加えられ、言いたいとする内容の半分くらいになってしまった。それでも承服したのですが、後に...

震災救援募金を受け付けます

世界日報社は、地震で被災した方々のために、救援募金を受け付けます。募金は「東日本大震災義援金」と明記して郵便振替(00140-6-727790、加入者名 株式会社世界日報社)か、現金書留(〒174-0041東京都板橋区府渡2-6の25 世界日報社「東日本大震災救援募金」係宛)で送金ください。郵便振替の手数料はご負担をお願いします。物資の受け付けはいたしません。匿名希望の方は、通信欄などにその旨をご記入ください。寄せられた義援金は日本赤十字社などを通じ、被災地に届けられます。

情報プラザ

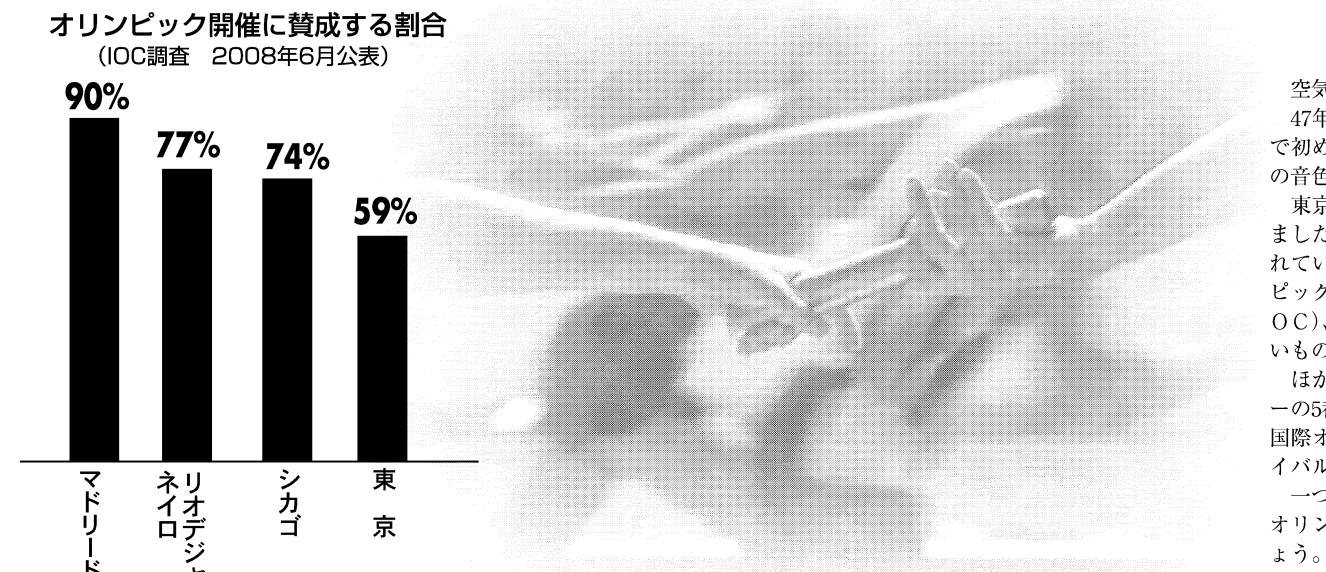
1110 催し

- ▼青島繁晴氏講演会「祖国と沖縄に光あれ」9月19日(月) 宣野済民会館(宣野済民会)「戦後日本と日米同盟」これからの沖縄の行方を探る。マヤに独立総合研究所の青島繁晴氏が講演。
- ▼「パンドラの箱」の箱を開ける時」琉球新報 隊長から命令が出された」と記していたが、その部分は嘘だった」と記していた。隊長の命令だ、と書かなければならなかったのか、晴美さんはいささかを説明した。(中略)

お問い合わせ先 日本青年会議所沖縄地区協議会(電)098(8558)

五輪招致で一つになろう

空気が澄み渡り、深呼吸したくなる季節になりました。スポーツの秋です。47年前の10月10日、東京五輪の開会式が国立競技場で行われました。アジアで初めてのオリンピックを祝福するような青空と、天にも響くファンファーレの音色が印象的でした。「体育の日」はこの日を記念して生まれました。東京都は再び五輪を招致するため、2020年夏季五輪の開催地に立候補申請しました。東日本大震災、原発事故、経済の停滞などで日本は今、閉塞感に包まれています。後ろ向きになりがちで国民の気持ちを前向きにする上で、オリンピックは最適のスポーツイベントです。東京都、日本オリンピック委員会(JOC)、政府、そしてみんなが一つとなって、56年ぶりの東京五輪を実現させたいものです。ほかに立候補したのはローマ、マドリッド、イスタンブール、ドーハ、バクーの5都市。来年5月の1次選考で4都市程度に絞り込まれたあと、2013年9月の国際オリンピック委員会(IOC)で開催都市が決定します。これら強力なライバルに勝つには、いくつかの課題があります。一つは大会の意義づけです。テーマは「震災からの復興」になるようですが、オリンピックと被災地を結び付けてより説得力のある形にすることが必要でしょう。東京での五輪開催は日本のためだけではなく、大震災から立ち直った姿を示すことができるなら、自然災害や戦禍など苦境の中にある世界の人々に希望と勇気をもたらすはずです。もう一つの課題は、私たち国民の熱意です。2016年五輪の招致に東京が失敗した要因の一つは、この熱意が足りなかったことです。IOCの調査では、東京五輪への日本人の支持率は59%で、立候補4都市中、最下位でした。自分の身の回りのことだけに関心を持つ一方、社会全体で何かに取り組むことに消極的になっている人が多くいることが分かります。2020年という節目に、国民みんなで実現する「夢」としてオリンピックほど相応しいものはありません。日本人が一丸となって五輪誘致を勝ち取り、日本と世界を元気にしましょう。



家庭は愛の学校

毎月第3日曜日は「家庭の日」
11月第3日曜日は「家族の日」

「家庭の日」は、社団法人「青少年育成国民会議」が進めてきた「家庭の日」運動に端を発し、今ではほとんどの自治体が、第3日曜日を「家庭の日」に定めています。さらに取組は11月の第3日曜日を「家族の日」(その前後)と定めた「家族の日」に定めました。この日を機会に、家族の強い絆を築き、それは、家族みんなへの素敵なプレゼントになるでしょう。

眞の家庭運動推進協議会
The Association for the Promotion of True Families
〒160-0022 東京都新宿区新宿5-13-2 成約ビル4F
TEL:03(6457)7760 FAX:03(6457)7761 http://www.aptf.gr.jp